

ケアラー支援について

○ケアラーとは

心や身体に不調のある家族などの看病・療育・世話・気づかいなどを無償で担う方

Ex.) ダブルケア, 老老介護, ヤングケアラー, (若年性) 認知症・障害・難病

参考①（総務省「就業構造基本調査」2017年）

・ 都内で就業しながら介護している方	425.3 千人（就業者の約 5.4%）
⇒うち、介護休暇制度を利用した方	35.6 千人（約 8.5%）
・ 都内で介護・看護を理由に離職した方	7.8 千人（男:女≒1:3）
⇒うち、就業に復帰された方	0.4 千人（約 5.1%）

参考②（調布市「在宅介護実態調査」2019年）

・ 就業しながら介護している方	45.1%（回答者数：632人）
・ 介護を理由に離職した方	7.1%（回答者数：632人）

○市の取組状況

「家族介護者の支援」として、第1期計画（平成12年～平成16年）では重要課題、第2期（平成15年～平成19年）では施策目標の一つとして位置付けられる。

第7期計画策定時から在宅介護実態調査が開始され、同期計画（平成30年～令和2年）から、「ケアラー」が用いられ、重点施策に「ケアラー（介護者）支援」として位置付けられる。

参考（「第7期調布市高齢者総合計画」重点施策・取組）

1 介護予防の取組

2 ケアラー支援

3 医療と介護の連携強化

4 住環境の整備

5 認知症高齢者等への支援の充実

【取組】

- (1) 相談体制の充実と積極的な情報提供
- (2) レスパイトケアの促進
- (3) 介護者講座の実施
- (4) ケアラー同士が集まる場や団体との連携支援
- (5) 地域での介護や在宅療養に対する理解の浸透
- (6) 新しい事業や取組の検討

○第8期の取組

第7期に引き続き、ケアラー（介護者）支援を計画に位置付ける（重点施策に変更無）。

介護者の負担軽減

- ・在宅支援サービス
- ・相談事業、各種サービスの利用促進

専門職業団体・機関等との連携

- ・社会福祉協議会，地域包括支援センター
- ・市内医療機関，ちょうふ在宅医療相談室
- ・介護支援専門員調布連絡協議会

ケアラー活動団体等との連携

- ・ケアラー活動団体との連携・情報共有
- ・認知症カフェ，認知症サポーター
- ・地域支援合い推進員，地域福祉コーディネーター

情報提供

- ・ケアラー支援マップ，ケアラー手帳
- ・認知症ガイドブック，くらしの案内
- ・介護者講座，介護教室，介護技術講座
- ・認知症サポーター養成講座

○各種調査

調布市在宅介護実態調査（2019・2016）

- ・介護者が不安に感じる介護

要支援1・2	増	その他の家事（掃除・買い物・洗濯等） ※7.0pt 増（27.0%②）
	減	外出の付き添い，送迎等 ※8.8pt 減（40.7%①）
要介護1・2	増	夜間の排泄 ※3.0pt 増（24.2%④）
	減	外出の付き添い，送迎等 ※6.6pt 減（38.1%②）
要介護3～	増	認知症への対応 ※8.9pt 増（36.8%①）
	減	日中の排泄 ※11.9pt 減（34.6%②）

- ・就労の有無

	2016 (n=228)	2019 (n=632)
フルタイム勤務	24.1%	22.6%
パートタイム勤務	19.7%	22.5%
働いていない	54.4%	53.0%

- ・就労継続見込

設問	2016		2019	
	やや難しい	かなり難しい	やや難しい	かなり難しい
フルタイム勤務	12.7%	1.8%	8.9%	6.7%
パートタイム勤務	11.9%	2.4%	3.8%	5.3%
要支援1～要介護1	8.6%	3.4%	5.2%	3.9%
要介護2以上	18.4%	0.0%	8.0%	8.9%
自立+I	8.6%	5.7%	4.9%	1.2%
II以上	14.8%	0.0%	7.1%	8.2%

○介護者講座

認知症について学び、同じ介護者同士で意見交換することで、介護者自身の気持ちや介護との付き合い方を整理することにより、介護者自身が自分らしい生活の仕方を決めていくことを目的とする。

令和4年度開催状況

- ・日 程 全7回（コース制）
- ・定 員 12人（平均年齢：61歳（41～78歳），女性11：男性1）
- ・対 象 者 認知症の方を介護するご家族（市民限定）
- ・会 場 文化会館たづくり，クオール薬局調布店
- ・講座内容 認知症高齢者の心の理解，介護者自身の心に気づこう，
認知症の介護について，サービスを上手に使おう，
明日からの介護に向けて 等

<講師（臨床心理士）による進行>



<受講者同窓会>

